

第39回日本脳卒中の外科学会

ランチョンセミナー 14



STROKE
2010

日時

2010年 **4月16日** [金]
12:00-13:00

会場

E会場 岩手県水産会館 5F 大会議室
〒020-0023 盛岡市内丸16-1

CEA / CAS 施行における 各種画像診断の有用性

座長

中川原 譲二 先生

医療法人医仁会 中村記念病院 脳神経外科 診療本部長

演者

細田 弘吉 先生

神戸大学大学院医学研究科 脳神経外科学 准教授

共催

第39回日本脳卒中の外科学会
日本脳神経核医学研究会
日本メジフィジックス株式会社

 nihon
medi+physics

CEA / CAS施行における 各種画像診断の有用性

頸部頸動脈狭窄症の治療に従来から行われてきた頸動脈内膜剥離術 (CEA) に加え近年、頸動脈ステント留置術 (CAS) が手術困難症例などに行われるようになってきた。しかし、術後におこる脳内出血等の過灌流症候群がしばしば問題となっている。過灌流症候群は術前の灌流圧低下状態のために脳血流自動調節能が機能不全に陥っているところに急激に灌流圧が上昇 (正常化) し、脳血流が制御されずに異常に増加する状態 (過灌流) と考えられており、CEA・CAS術後死亡につながる重篤な合併症である。また、無症候の一過性過灌流であってもその後の認知機能低下の要因となることが示唆されている。術後過灌流の予測因子として、脳血流SPECTによって計測される術前の脳血流低下やacetazolamide負荷後の脳血流増加率の低下の有用性が報告されている。昨年、日本脳神経核医学研究会で作成された「エビデンスに基づく脳神経核医学ガイドライン」においては、術前の安静および acetazolamide (ACZ) 投与後の脳血流SPECTはCEAやCAS術後の過灌流症候群発症予測のために勧められる (推奨グレードB)。過灌流症候群のハイリスク症例では、過灌流の検出および予後予測のため術後早期の脳血流SPECTが勧められる (推奨グレードC1) と記載されている。

本セミナーではCEA・CASによる過灌流の評価における脳血流SPECTなどの各種画像診断の有用性について紹介していただく。

医療法人医仁会 中村記念病院 脳神経外科 診療本部長

中川原 譲二

About JCNN

日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていきたくと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

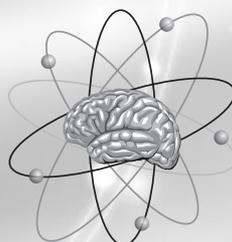
日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F

日本コンベンションサービス株式会社内

E-mail: infojcnn@convention.co.jp

Tel: 03-3508-1214 Fax: 03-3508-1302



JCNN